

栗野町報 第三十六號

粟野町報

第三十六號

大正十四年六月三十日

(火曜日)

議

●六月二十一日

- 第一號 一本町有給助役推薦ノ件
- ▲原案可決
- 第二號 一大正十四年本町歳入出豫算追加ノ件
- ▲修正可決 (別紙ノ通)
- 第三號 一用水路堀敷附換願ニ關スル件
- ▲原案可決
- ▲修正可決 (字下町公産番ヨリ全全五九番ノ住宅地内へ附換)
- 第四號 一府縣稅目數割施行細則中第七條ニ依ル控除金額決定ノ件
- ▲原案可決 (別紙ノ通)
- 第五號 一縣粉戶數割賦課ニ關スル所得額決定ノ件
- ▲原案可決

第六號

一縣稅目數割賦課ニ關スル件

▲修正可決 (別紙ノ通)

○六月二十二日二十三二十四二十五日繼續町會

▲署名委員 二番 小曾 戶兼 吉

七番 福田 七右衛門 十五番 福田 彦一郎

第二號議案

歳入

一金四万七千三百五圓 歳入既定豫算額

一金六百二十圓 歳入追加豫算額

合計四万七千九百二十五圓

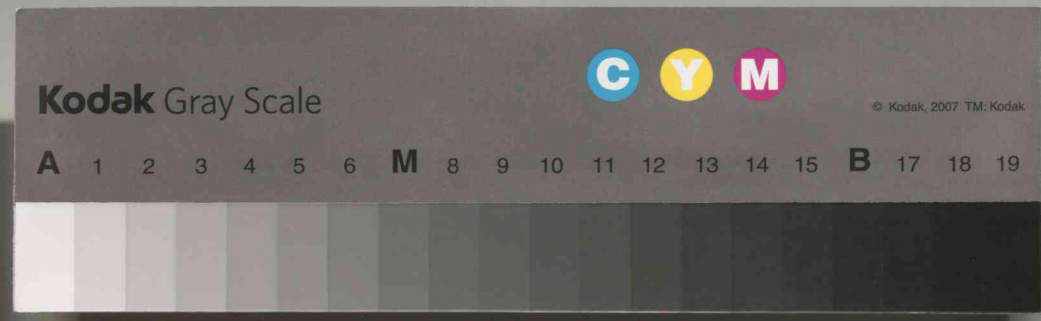
歳出

一金三万七千七百三十二圓 經常部歳出既定豫算額

一金九千五百七十三圓 臨時部歳出既定豫算額

計金壹万〇百九拾叁圓 臨時部歳出追加豫算額

合計金四万七千九百二十五圓



栗野町報 第三十六號

通報額調 (他町村民ニシテ本町ニ土地ヲ有スルモノ)

納稅義務者ノ數八百一人 獨立ノ生計ヲ營ム者 七百九十四人

國府縣稅額合計金三萬三千八百五十五圓

町村	區分		國稅額		縣稅額		附加稅額		合計		第三種所得稅	合計
	地租	稅計	附加稅	雜稅	附加稅	雜稅	附加稅	雜稅				
鹿沼町	二二四	二二四	五三〇	六九	三三九	支	支	支	支	支	支	支
北押原村	二二五	二二五	三〇〇	六九	三六九	支	支	支	支	支	支	支
南押原村	四三	四三	四〇	六九	八〇	支	支	支	支	支	支	支
西方村	二四	二四	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
眞名子村	一四	一四	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
清洲村	一四	一四	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
永野村	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
栗野町	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
東大藏村	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
加藤村	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
南原村	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
粕尾村	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支
合計	三三	三三	二〇	六九	二〇	支	支	支	支	支	支	支

種別	賦課		課税		納稅實人員	
	納稅額	納稅人員	納稅額	納稅人員	納稅額	納稅人員
所得稅附加稅	三三	三三	二〇	六九	二〇	六九
礦業採掘區稅	二九	二九	二〇	六九	二〇	六九
合計	六二	六二	四〇	一三六	四〇	一三六

栗野町報 第三十六號





栗野町報 第三十六號

受報額調 (本町民ニシテ他町村ノ土地ヲ有スルモノ)

區分	國稅	地租	附加稅	雜稅	總額
神奈川縣	三、五五	二、四〇			五、九五
茨城縣	八、二五	一、〇〇			九、二五
靜岡縣	七、〇五	六、一〇			一三、一五
郡馬縣	一、八二	一、七〇			三、五二
加藤縣	四、七五	三、〇〇			七、七五
北海	三、三〇	一、八〇			五、一〇
他府縣計	一、八七	一、〇五			二、九二
合計	二、五七	一、〇〇			三、五七
東大蘆村	四、七五	四、七五			九、五〇
小來川村	三、三〇	三、三〇			六、六〇
郡内他町村計	六、〇五	六、〇五			一二、一〇
河内郡	三、〇〇	三、〇〇			六、〇〇
下都賀郡	三、〇〇	三、〇〇			六、〇〇
縣内他都市計	三、三〇	三、三〇			六、六〇
埼玉縣	一、〇〇	一、〇〇			二、〇〇
他府縣計	一、九〇	一、九〇			三、八〇
合計	六、〇〇	六、〇〇			一二、〇〇
他町村					
他府縣					
合計					

賦課額ノ内自町村民ニ非サル賦課額調 (他町村ノ通報分以外)

區分	國稅	地租	附加稅	雜稅	總額
常時修繕費					金五百一十圓
其ノ他ノ諸費					金六百〇三圓
合計					金一千一百一十三圓

學事

○本町ハ地勢ノ關係上三校ヲ併置セザルベカラザル狀態ニ置カ
ル、ヲ以テ年々教育費ノ支出多額ニ上ル亦止ムヲ得ザルベ
シ世ノ進運ニ伴ツテ教育ノ閉却スベカラザルハ當然過ギル程
當然ノ事ニシテ世間一般不況ノ昨今其負擔モ輕カラザルコト
ナガラ吾カ子弟姉妹ノ教養ニ實スル大切ナル費用ノ事勿論當
局ニ於テモ極力緊縮方針ヲ立テ一厘一毛ノ微ト雖モ冗費ヲ省
クニ苦心シ將タ又如何ニ有効ニ用フベキカニ就テ細心ノ注意
ヲ怠ラズ今大正十二年度(十三年度ハ決算報告未済不日報告
ノ筈)實支出ノ途ニ就テ仔細ニ點檢シ得タル數字左ノ如シ煩
ハシクモ一讀セラレタシ

○大正十二年ノ實支出シタル決算ニ就テ見ルニ小學校三校分支
出總額ヲ舉ゲレハ

一金二万一千〇二十五圓
ニシテ其ノ内譯

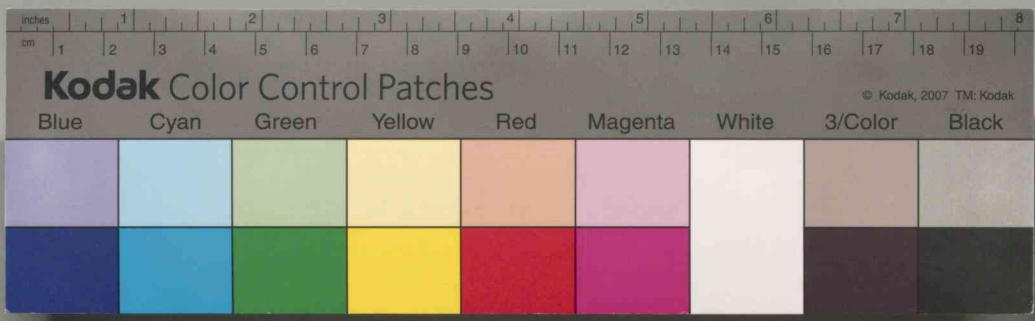
- ▲教員俸給 金一万五千五百四十四圓
- ▲學校醫手當 金百三十二圓
- ▲旅費 金三百八十四圓
- ▲使丁給其他 金五百六十九圓
- ▲圖書器械標本費 金六百五十二圓
- ▲器具費 金八百六十六圓
- ▲消耗品費 金五百六十九圓

栗野町報 第三十六號

勸業統計 (大正十四年)

大字別	田	畑	草
大栗野	八町四反	二十九町五反	十町二反
中栗野	十町一反	二十町四反	三反
入栗野	十町五反	十二町五反	三反
柏木	十町五反	八反	十町五反
合計	三十町五反	六十三町二反	三十町五反





栗野町報
第卅七號

栗野町報

第卅七號 (大正十四年七月三十日)
【木曜日】

栗野町報
第三十六號

○六月十日時之記念日ニ於テ栗野青年會主催トナリ大正ノ維摩居士トシテ令聞アル京都鹿谷一燈園主西田天香師ヲ聘シ粟野

第一小學校講堂ニ於テ講演會ヲ開催シ精神生活ニ關シ師一流ノ熱辯ヲ振ハシ聴衆八百名ニ達シ深キ感動ヲ與ヘタリ
○六月二十三日付 栃木縣指合庶第二五二〇號ヲ以テ現助役タル安發清作本町有給助役ニ選定ノ件知事ヨリ認可セラル

<p>栃木縣上都賀郡栗野町勢一覽 大正十三年度</p> <p>役所場位置 栗野町大字口栗野一五五六番地ノ一</p> <p>面積及廣袤 〇三方里 東西一里一十四町 南北三里一十六町</p>		<p>土地及口戸</p> <p>別段地有官 諸國御料地 諸官有地 野地</p> <p>計 五〇〇</p> <p>別段地有民 免荒有租地 地地</p> <p>計 一七六一</p> <p>計 一七六一</p>	
<p>地目</p> <p>別段地有官 諸國御料地 諸官有地 野地</p> <p>計 五〇〇</p> <p>別段地有民 免荒有租地 地地</p> <p>計 一七六一</p> <p>計 一七六一</p>	<p>地目</p> <p>別段地有官 諸國御料地 諸官有地 野地</p> <p>計 五〇〇</p> <p>別段地有民 免荒有租地 地地</p> <p>計 一七六一</p> <p>計 一七六一</p>	<p>地目</p> <p>別段地有官 諸國御料地 諸官有地 野地</p> <p>計 五〇〇</p> <p>別段地有民 免荒有租地 地地</p> <p>計 一七六一</p> <p>計 一七六一</p>	<p>地目</p> <p>別段地有官 諸國御料地 諸官有地 野地</p> <p>計 五〇〇</p> <p>別段地有民 免荒有租地 地地</p> <p>計 一七六一</p> <p>計 一七六一</p>

<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>	<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>	<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>	<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>
--	--	--	--

<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>	<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>	<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>	<p>前年</p> <p>種別</p> <p>婚姻</p> <p>離婚</p> <p>婚出</p> <p>出生</p> <p>死亡</p> <p>死亡</p> <p>産</p>
--	--	--	--

編輯兼 發行人 安發清作

印刷所 常陸屋印刷部

印刷人 鈴木照藏

發行所 栗野町役場

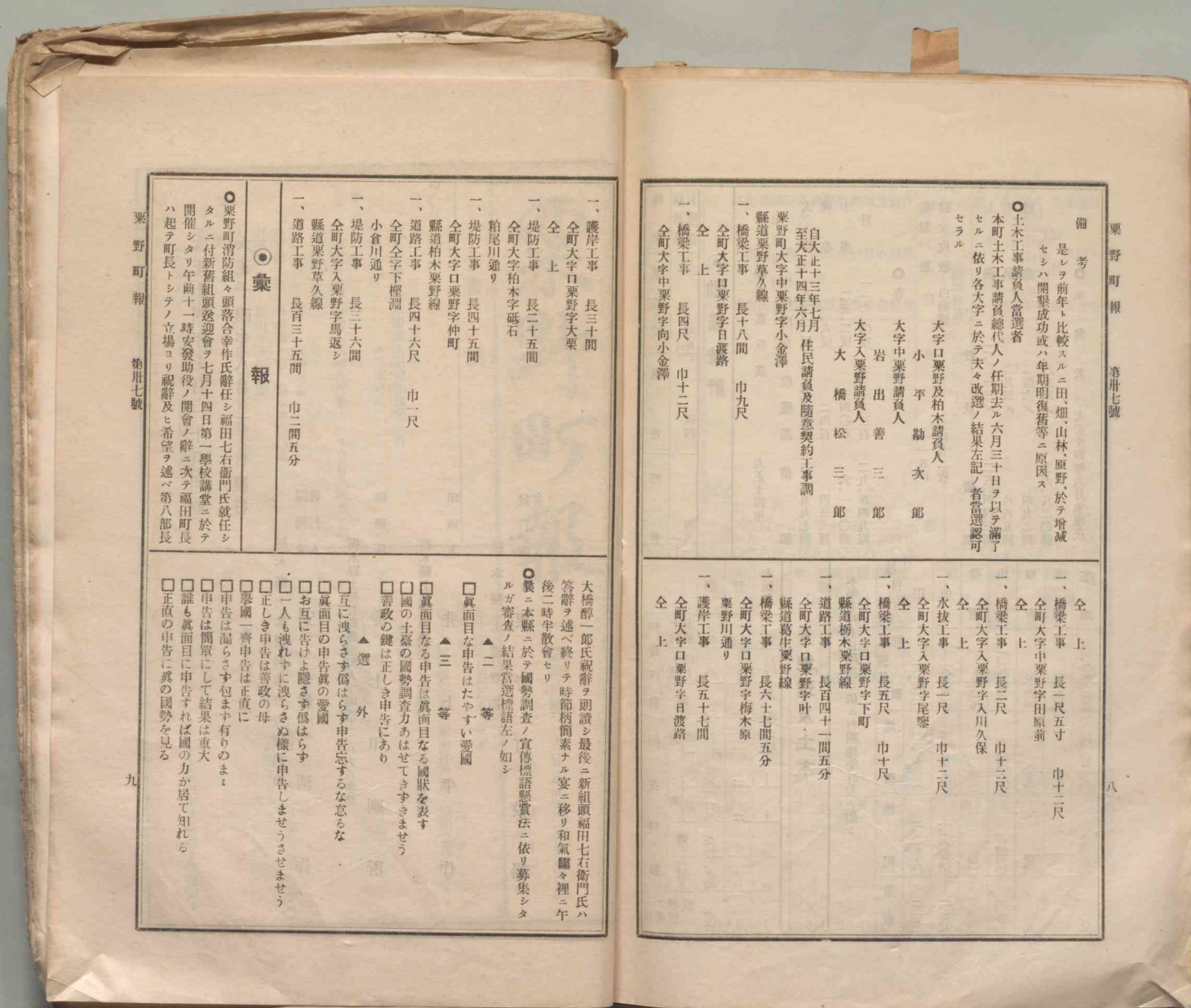
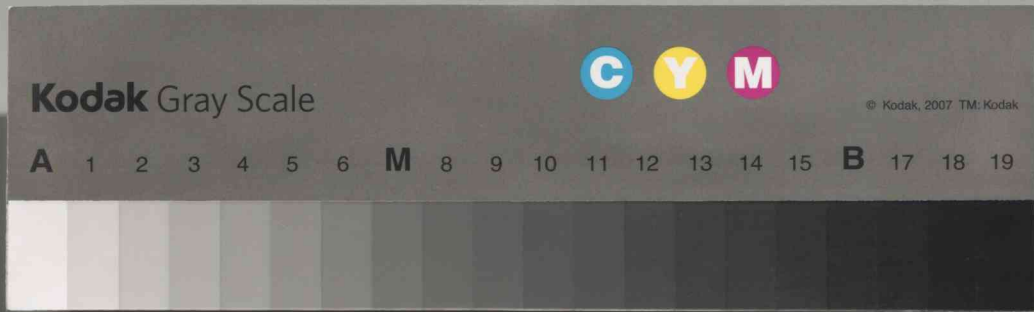


栗野町報 第卅七號

種別	前年計				前年計				前年計				前年計			
	水産	水産	水産	水産	礦産	銀産	銅産	錫産	薪炭	木産	竹産	新産	其産	家産	居産	産産
種別	魚獲	水産	水産	水産	礦産	銀産	銅産	錫産	薪炭	木産	竹産	新産	其産	家産	居産	産産
數量	八三	五二	三三	八三	一七〇	一六二	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
價額	五〇	一八	一八	一八	三二	六三	四一	五八	一四	五二	二二	四四	一四	四〇	一〇	〇〇
總計	八三	五二	三三	八三	一七〇	一六二	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七

種別	前年計				前年計				前年計				前年計			
	畜産	農産	林産	漁産	礦産	銀産	銅産	錫産	薪炭	木産	竹産	新産	其産	家産	居産	産産
種別	畜産	農産	林産	漁産	礦産	銀産	銅産	錫産	薪炭	木産	竹産	新産	其産	家産	居産	産産
數量	八	二	五	三	一	二	五	〇	四	七	九	一	八	七	二	
價額	二	四	一	七	八	九	〇	二	八	七	二	五	四	一	二	
總計	八	二	五	三	一	二	五	〇	四	七	九	一	八	七	二	





栗野町報 第卅七號

栗野町報 第卅七號

一、護岸工事 長三十間
全町大字口栗野字大栗
全上

一、堤防工事 長二十五間
全町大字柏木字砥石
柏尾川通り

一、堤防工事 長四十五間
全町大字口栗野字仲町
縣道柏木栗野線

一、道路工事 長四十六尺 巾一尺
全町全字下樫淵
小倉川通り

一、堤防工事 長三十六間
全町大字入栗野字馬返シ
縣道栗野草久線

一、道路工事 長百三十五間 巾二間五分

● 報

大橋醇一郎氏就任後、最後ニ新組頭福田七右衛門氏ハ
答辭ヲ述べ終リテ、時節柄簡素ナル宴ニ移リ和氣鬪ヲ裡ニ午
後一時解散セリ

○農ニ本縣ニ於テ國勢調査ノ宣傳標語競賽法ニ依リ募集シタ
ルガ審査ノ結果當選標語左ノ如シ

▲一 等
□ 眞面目な申告はたやすい要國

▲二 等
□ 眞面目なる申告は眞面目なる國狀を表す

▲三 等
□ 國の土臺の國勢調査力あはせてきまきませう

□ 善政の鍵は正しき申告にあり

▲選外
□ 互に洩らさず偽はらず申告するな忠告をな

□ 眞面目の申告眞の愛國

□ お互に告げよ隠さず偽はらず

□ 正しき申告は善政の母

□ 眞面目な申告は眞面目に

□ 申告は簡明にす包まず有りのみ

□ 誰も眞面目に申告すれば國の力が居て知れる

□ 眞面目の申告に眞の國勢を見る

備考
是レテ前年ト比較スルニ田、畑、山林、原野、於テ増減
セシハ開墾成功或ハ年明復舊等ニ原因ス

○土木工事請負人當選者
本町土木工事請負總代人ノ任期去ル六月三十日ヲ以テ満了
セルニ依リ各大字ニ於テ夫々改選ノ結果左記ノ者當選認可
セラル

大字口栗野及柏木請負人
小 平 勲 次 郎
大字中栗野請負人
岩 出 善 三 郎
大字入栗野請負人
大 橋 松 三 郎

自大正十三年七月
至大正十四年六月 住民請負及隨意契約工事調
栗野町大字中栗野字小金澤
縣道栗野草久線

一、橋梁工事 長十八間 巾九尺
全町大字口栗野字日渡路
全上

一、橋梁工事 長四尺 巾十二尺
全町大字中栗野字向小金澤

全上
一、橋梁工事 長一尺五寸 巾十二尺
全町大字中栗野字田原前
全上

一、橋梁工事 長二尺 巾十二尺
全町大字入栗野字入川久保
全上

一、水抜工事 長一尺 巾十二尺
全町大字入栗野字尾鑿

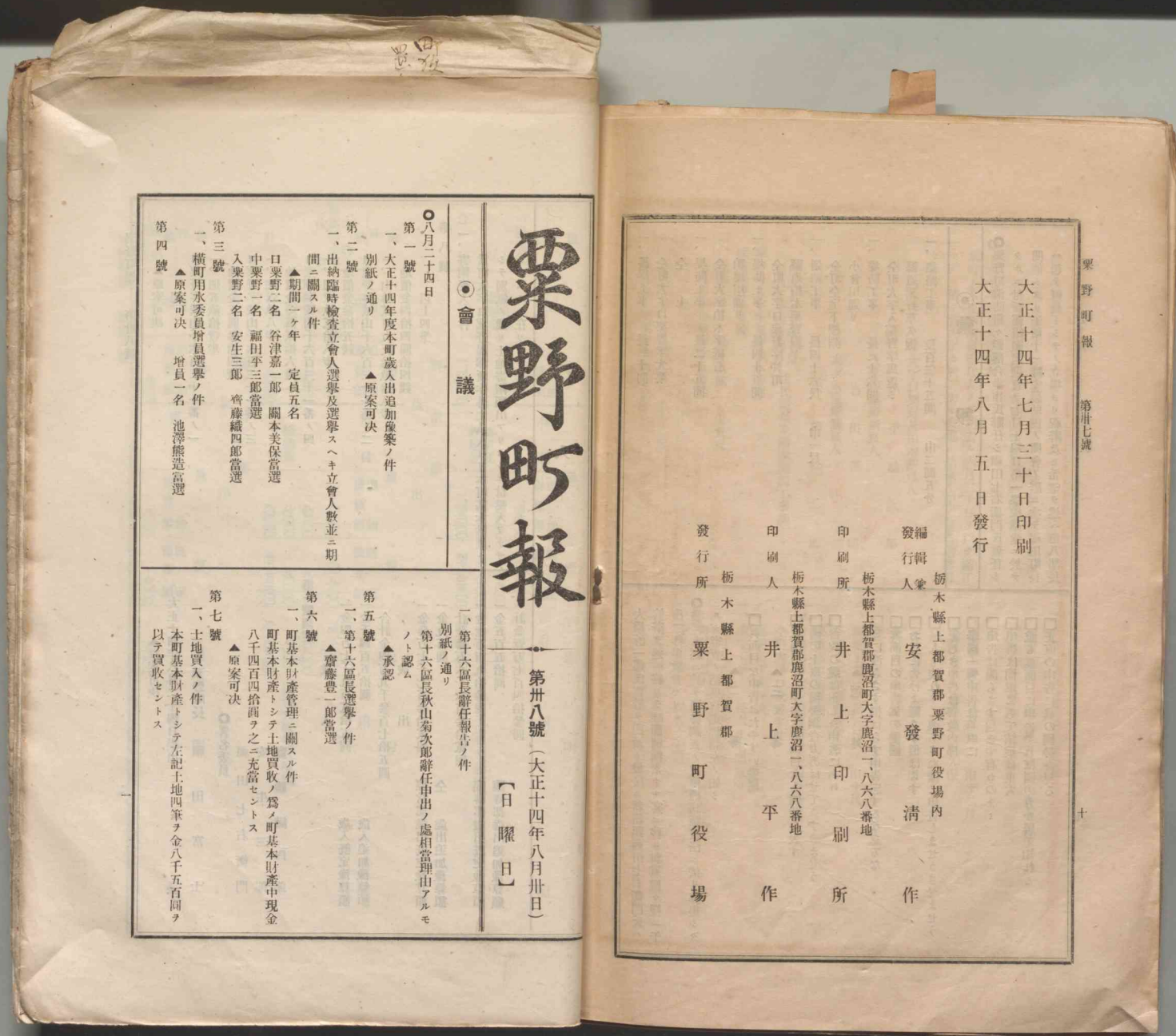
一、橋梁工事 長五尺 巾十尺
全町大字口栗野字下町
縣道柏木栗野線

一、道路工事 長百四十一間五分
全町大字口栗野字叶
縣道葛生栗野線

一、橋梁工事 長六十七間五分
全町大字口栗野字梅木原
栗野川通り

一、護岸工事 長五十七間
全町大字口栗野字日渡路
全上





536 粟野地区 粟野町収集文書

ア2





七調會費		四校高等小學		一線越金	
科目	項目	科目	項目	科目	項目
臨時	四修繕費	經常	一線越金	臨時	一線越金
種目	一修繕費	種目	一線越金	種目	一線越金
豫追算額加	20000	豫追算額加	14000	豫追算額加	14000
豫既算額定	20000	豫既算額定	14000	豫既算額定	14000
計	20000	計	14000	計	14000
附明記	校合大修繕費増額	附明記	大正十三年度繰越金見込増額	附明記	

第一號議案	
歳入	歳出
一、寄附受入ノ件 當町大字口栗野湯澤新作外十八人ヨリ本町基本財産トシテ別紙ノ通り土地寄附願出アリタルニ付受入ヲナサントスルニ在リ	一、寄附受入ノ件 當町大字口栗野湯澤新作外十八人ヨリ本町基本財産トシテ別紙ノ通り土地寄附願出アリタルニ付受入ヲナサントスルニ在リ
一、寄附受入ノ件 當町大字口栗野湯澤新作外十八人ヨリ本町基本財産トシテ別紙ノ通り土地寄附願出アリタルニ付受入ヲナサントスルニ在リ	一、寄附受入ノ件 當町大字口栗野湯澤新作外十八人ヨリ本町基本財産トシテ別紙ノ通り土地寄附願出アリタルニ付受入ヲナサントスルニ在リ



栗野町報 第卅八號

栗野町國勢調査員豫備員及調査區域ノ如シ

調査區番號	區域	氏名	豫備員
一	大字口栗野字釜場	金井正	一四 全 字岡梅ノ木原栗澤 福田源一郎
二	字新宿	片澤喜代次	一五 全 字日渡路炭谷 大山宮内
三	字下町南側通	阿部與惣八	一六 大字中栗野字板名 齋藤一雄
四	字下町北側通	牧野三郎	一七 全 字追知小倉澤 市川順之丞
五	字中町南側通	榎見喜兵衛	一八 全 字菅沼 松本勝太郎
六	字中町北側通	落合義則	一九 大字中栗野字大栗 大塚讓一郎
七	字上町	内田平次	二〇 大字大栗野・字宮内久保出口 齊藤平三郎
八	字叶桑澤南側通	金子茂八郎	二一 全字境澤・瀧之端・中内 安生善一
九	字叶桑澤北側通	澤村喜一	二二 全字水澤・川久保・赤仁田馬 高橋幸之
一〇	大字柏木	神山佐太郎	二三 全 字上五月・五月 齋藤八重松
一一	大字口栗野字横町東側通	大川宇一郎	豫備員 福田重勝
一二	字桶町西側通	鍛原準三郎	豫備員 神山知樹
一三	字中妻	青柳政一郎	豫備員 福田勝一郎
			廣瀬長一郎

七

栗野町報 第卅八號

◎學事

◎大正十三年度學事諸費左ノ如シ

- ▲教員俸給 金壹万六千五百五拾五圓
- ▲校醫手当 金百參拾貳圓
- ▲旅費 金參百五拾八圓
- ▲小使給料其他 金五百八拾七圓
- ▲圖書器械標本費 金五百五拾圓
- ▲器具費 金參百四拾六圓
- ▲消耗品費 金七百八拾貳圓
- ▲修繕費 金八百拾貳圓
- ▲他諸費 金參千九百九拾貳圓

合計金貳万四千百拾四圓

◎國勢調査

十月一日午前零時

◎國勢調査は何の爲に行ひますか

國勢調査といふのは國家社會の實況を調べ、其の國に於ける社會組織の内容、國民生活の實狀とを審にし善政の基礎を作るのが目的でそれが爲、先づ全國一齊に一人一人に就いて實地の調査を行ふのであります。

一 體國家が繁榮し、國民が幸福になるには常に時代に適應して

◎調査要項

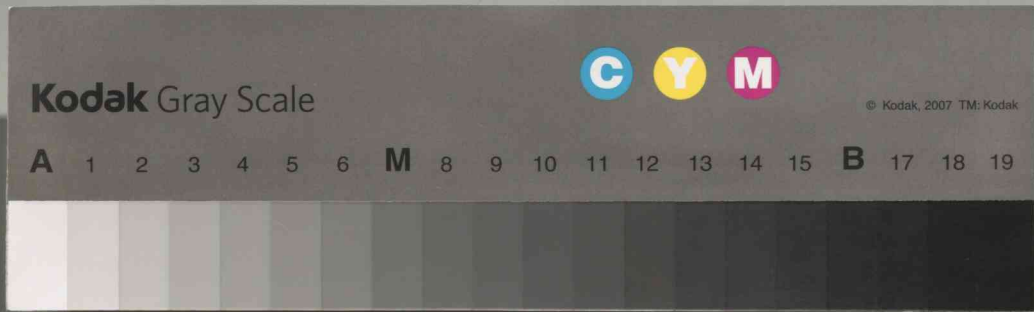
一、氏名 氏名を書くのです、それからまだ名のついて無い者は名ツケヌミ書きいれ

二、男女の別 男は「男」女は「女」の文字の右傍に○印をつければよいのです

三、出生年月 生れた年月を書き入れるのです、生れた月の明でない者は「月」の上「不明」をかき入れ、生れた年も明でない者は見込の年齢、何歳と書き入れるのです

四、配偶の關係 夫のある人は「有配偶」の文字の、妻に死別した人は「死別の文字」、離婚した人は「離婚」の文字の、未婚の人は「未婚」の文字の右傍に○印をつければよいのです

詳しい事は國勢調査員が巡回して行きますから其の時に御尋ね下さい



栗野町報 第卅八號

▲八月廿四日ヨリ三十日迄七日間郡學校醫會郡醫師會郡齒科醫師會主催學校衛生講習會ヲ栗野第一尋常高等小學校内ニ開催シ小林郡醫師會長、村山縣學校衛生技師、吉澤醫師鈴木起、醫師、星代郡視學、青木校醫、金子校醫、岸野齒科醫師、菅又藥劑師ノ諸氏講師トシテ熱心ニ教授セラレ講習生ハ第三組合ニ屬スル男女教員役場員學務委員等ニシテ會期終了ノ三十日午後二時相馬郡長、小林郡醫師會長、星代郡視學、齋藤郡學務主任、福田町長臨席ノ上相馬郡長ヨリ五日以上ノ講習者ニ對シ夫々修業證書ヲ授與セラレタリ

▲本講習會ニ就テ
本講習會有利ノ効果ヲ與ヘタルハ勿論ニシテ講師諸先生ノ説ク所深遠ナル學理ニ捉ヘラレズ専門ニ陥ルコトナク能ク咀嚼シ能ク消化サレテ素人ノ耳ニ入り易ク素人ノ手直チニ之ヲ行ヒ得ベキ範圍ノ程度ニ於テ而カモ多方面ニ涉リ續々説明シ換言セバ『應病與藥』セラレタル所効果多キ所以ナリ是ヲ以テ受講生モ皆テ懐ケル『隠々裡裡』有『箇物相似』底ノ欺團モ水釋融化シ得タルモノアルヲ信ズ茲ニ主催者並ニ講師連日ノ勞ヲ開催地トシテ深ク感謝ノ意ヲ表ス

○朝鮮水害被害表 (内閣拓殖局發表)
一死 三九七人
一傷 二六四人
一行方不明 一九七人

○本町ニ於テ役場吏員學校職員並ニ學校生徒ハ義捐金ヲ募集シ左記ノ通り寄附シタリ

一床下浸水	三九、八二四戸
一全 潰	三〇、三七五戸
一全 潰	一一、〇二四戸
一田防破損	六六八〇戸
一橋梁破損	二二、〇一八間
一救護人員	四三、二四ヶ所
一田畑流失	二八、二九三人
一救護人員	八八、四四一人
一田畑流失	三三、〇一九町
一救護人員	二九、一七町

金拾貳圓四拾五錢
内 記
金六圓八拾九錢
金參圓拾貳錢
金壹圓拾壹錢
金壹圓參拾參錢

栗野第一尋常高等小學校 全 補習學校職員及生徒
栗野第二尋常高等小學校 職 員 及 生 徒
栗野尋常小學校 職 員 及 生 徒
栗野町役場吏員 全
農會技手全囀托

○家庭における野菜取引の状況
一、農家における野菜栽培の必要
警視廳技師 井 口 乘 海
我國の農家に於ては野菜栽培のために人糞肥料を使用している事が多いのである。この人糞肥料を用いる事については、我國の地質から考へても又は經濟上の方面から考察して見ても止むを得ないことであるが衛生上から考へて決してよい事であるとは言われない。しかし専門家の研究によると人糞を野菜に注ぐ有害はある注意にかつて相當輕減する事が出来るさうであるが注意とは何であるかさうであるか
(1)なるべく早く人糞を腐敗せしめてから野菜に注ぐこと
(2)肥料を施してから少くとも一週以上を經て市場へ賣出すこと
こんな事で野菜から人体におよぼす危害を減じ得るのであるところが都會地の近郊に耕作をしている百姓の人達は時によるに生肥を野菜に注ぎかけるのみならず甚だしきは肥料柄柄を用いて注いでいる。野菜は肥料種と一緒に用水堀につけてあるとゆう風に随分亂暴に取扱つてゐるが誰人もこの状態を目の前に直視しては到底野菜をこのままで食べる氣にならぬ
またこの事はたゞ『氣持が悪い』とゆうばかりでなく、消化器系傳染病豫防上看過すべからざる問題である

栗野町報 第卅八號

二、野菜は腸チフス赤痢の媒介物
今や我國においては、都會地はもちろんのこゝ山紫水明の山地海濱に到るまで腸チフスや赤痢の流行を見ない所はないとゆつてもよい位、この程傳染病の流行を見ているが便所の構造の悪いためにチフスや赤痢菌は殆んど死滅せずして農家に運ばれ、農家の亂暴な野菜の取扱のためにこの恐るべき菌は野菜に附着してまた人の口に入るの現に東京市衛生試驗所、大阪市衛生試驗所で市場に販賣してある野菜を調査して殆んど全部に大腸菌(即ち排泄に常に糞池に糞尿を證明した事さいある、この成績によれば野菜は何れも糞尿のため汚され、時には腸チフス傳播の一介をなすに斷じてもさしつかへがないと考えられる私は、我國の腸チフス患者の一割即ち六千人位は此野菜から媒介されているのだと信ずる

三、生食を要する野菜類
前に述べた通り野菜には人糞が注がれていて氣持が悪いのであるがこの感情は假して別として傳染病の媒介をなすにおいては捨て置き難い問題であるがしからは野菜は全く煮て食べたらよいのではないかとゆう事は一應誰人も考へるにこゝろである、野菜中には小しく高い熱にあえば壊はれてしまふものが井タミシは小しく高い熱にあえば壊はれてしまふものがよくあるから煮ないようにならるべく生のままで食べる方がよい

九



地蚕驅除成績表

地名	麻作付及別	被害及別	驅除及別	驅除月日	驅除費數	備考
坪名	七、三二	四、〇〇	三、二〇	自六月三日 至六月十日	三、〇〇〇	破産
峯場	三、八二	二、五〇	二、二〇	自六月十日 至六月十八日	一、五〇〇	撤布
新宿	一、三〇	一、一〇	一、一〇	自六月十八日 至六月廿六日	二、五〇〇	驅除
下町	一、四〇	一、三〇	一、三〇	自六月十八日 至六月廿六日	五〇〇	挿布
中町	一、三〇	一、八〇	一、六〇	自六月十八日 至六月廿六日	二、〇〇〇	挿布
上町	七、〇〇	五、〇〇	三、〇〇	自六月十八日 至六月廿六日	五〇〇	
叶桑沢	一、一〇	一、七〇	一、四〇		一、七〇〇	
横町	二、一〇	一、七〇	一、一〇		三、〇〇〇	
中妻	四、三〇	三、八〇	三、五〇		二、三〇〇〇	
梅木原	五、六二	四、八〇	三、九〇		七、〇〇〇	

栗野町 第一郡 栗野町 役場

栗野町報 第卅八號

いこゝに於て野菜類は
 (イ)生のままで食べればツキタミンは完全に攝取できるけれどもも腸チフスや赤痢に罹る恐がある。
 (ロ)煮て食べれば傳染病の豫防にはなるがツキタミンはこぼれてしまうことになる。
 四、消毒して生のまま食べる。
 そのて私は野菜を晒粉(クロールカルキ)で消毒し必要なるものは生食することを、ある先づ一斗樽位の「野菜消毒桶」を定めをきこれに水一杯(一斗)を入れて一匁の晒粉を投じよくまぜる。こ次に野菜を買入たらすぐ右の晒粉消毒液の中に入れてよく洗ふことによつて取扱つたものも手も消毒が出来る。それから二時間以上浸漬したた後始めて「勝手元流し」(持ち入れる)晒粉は普通薬でたれにも賣る。一本六十匁が貳拾錢位で普通四五人の家庭ならば僅三つ余ですむ。少しく臭氣を持つてゐるが消毒後淨水でよく洗えば臭氣を残すような事もなく、また身体に少しも害はないから何等の心配なく實行されることである。絕對的さばはれなから安心して野菜類を食べることが出来る。

大正十四年八月三十日印刷
 全 九 月 十 日 發 行

編輯者 安 發 清 作
 印刷所 井 上 印 刷 所
 印刷人 井 上 平 作
 發行所 栗 野 町 役 場



栗野町報

第卅九號 (大正十四年十月三十日)
【土曜日】

● 會 議

第一號
一大正十四年度本町歳入出豫算追加ノ件
別紙ノ通 ▲原案可決

第二號
一寄附受入ノ件
當町大字中栗野松本淺次及ビ大字入栗野齊藤續四郎全字
高橋伸三郎ヨリ別紙ノ通り寄附願出アリタルニ因リ受入
ヲ爲サントスルニ在リ
▲原案可決

第三號
一本町有賃地山林ニ關スル件
▲宿題
前回繼續分

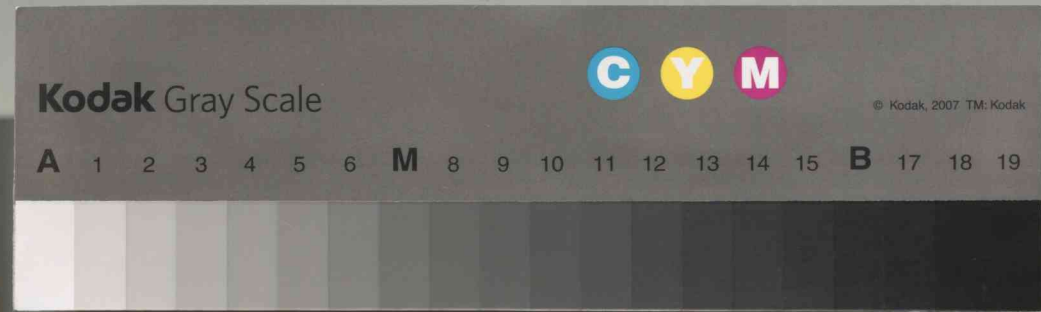
一瓦斯機關筒購入ノ件

▲撤回 以上

第一號議案

歳入	歳入既定豫算額
一金四万九千三百七十五圓	歳入追加豫算額
一金六百六十圓	經常部歳出既定豫算額
合計金五万三千五百三十五圓	經常部歳出追加豫算額
一金三万八千六百三十二圓	臨時部歳出既定豫算額
一金三百圓	臨時部歳出追加豫算額
計金三万八千九百三十二圓	
一金一万七百四十三圓	
計金一万一千百三圓	
合計金五万三千五百三十五圓	

計	大東	管沼	小追板	日渡路	
五九四〇	四八〇	三七〇	五四四	六四六	四七一
二七九〇	五〇	一三〇	一三〇	二四〇	二三〇
二六五〇	五〇	一〇〇	一九〇	一六〇	一八〇
			自六月廿七日	自六月廿七日	自六月廿七日
			自六月廿五日	自六月廿五日	自六月廿五日
			自六月廿三日	自六月廿三日	自六月廿三日
			自六月廿一日	自六月廿一日	自六月廿一日
			自六月十九日	自六月十九日	自六月十九日
			自六月十七日	自六月十七日	自六月十七日
			自六月十五日	自六月十五日	自六月十五日
			自六月十三日	自六月十三日	自六月十三日
			自六月十一日	自六月十一日	自六月十一日
			自六月九日	自六月九日	自六月九日
			自六月七日	自六月七日	自六月七日
			自六月五日	自六月五日	自六月五日
			自六月三日	自六月三日	自六月三日
			自六月一日	自六月一日	自六月一日
			自五月三十日	自五月三十日	自五月三十日
			自五月二十七日	自五月二十七日	自五月二十七日
			自五月二十五日	自五月二十五日	自五月二十五日
			自五月二十三日	自五月二十三日	自五月二十三日
			自五月二十一日	自五月二十一日	自五月二十一日
			自五月十九日	自五月十九日	自五月十九日
			自五月十七日	自五月十七日	自五月十七日
			自五月十五日	自五月十五日	自五月十五日
			自五月十三日	自五月十三日	自五月十三日
			自五月十一日	自五月十一日	自五月十一日
			自五月九日	自五月九日	自五月九日
			自五月七日	自五月七日	自五月七日
			自五月五日	自五月五日	自五月五日
			自五月三日	自五月三日	自五月三日
			自五月一日	自五月一日	自五月一日
			自四月三十日	自四月三十日	自四月三十日
			自四月二十七日	自四月二十七日	自四月二十七日
			自四月二十五日	自四月二十五日	自四月二十五日
			自四月二十三日	自四月二十三日	自四月二十三日
			自四月二十一日	自四月二十一日	自四月二十一日
			自四月十九日	自四月十九日	自四月十九日
			自四月十七日	自四月十七日	自四月十七日
			自四月十五日	自四月十五日	自四月十五日
			自四月十三日	自四月十三日	自四月十三日
			自四月十一日	自四月十一日	自四月十一日
			自四月九日	自四月九日	自四月九日
			自四月七日	自四月七日	自四月七日
			自四月五日	自四月五日	自四月五日
			自四月三日	自四月三日	自四月三日
			自四月一日	自四月一日	自四月一日
			自三月三十日	自三月三十日	自三月三十日
			自三月二十七日	自三月二十七日	自三月二十七日
			自三月二十五日	自三月二十五日	自三月二十五日
			自三月二十三日	自三月二十三日	自三月二十三日
			自三月二十一日	自三月二十一日	自三月二十一日
			自三月十九日	自三月十九日	自三月十九日
			自三月十七日	自三月十七日	自三月十七日
			自三月十五日	自三月十五日	自三月十五日
			自三月十三日	自三月十三日	自三月十三日
			自三月十一日	自三月十一日	自三月十一日
			自三月九日	自三月九日	自三月九日
			自三月七日	自三月七日	自三月七日
			自三月五日	自三月五日	自三月五日
			自三月三日	自三月三日	自三月三日
			自三月一日	自三月一日	自三月一日
			自二月二十七日	自二月二十七日	自二月二十七日
			自二月二十五日	自二月二十五日	自二月二十五日
			自二月二十三日	自二月二十三日	自二月二十三日
			自二月二十一日	自二月二十一日	自二月二十一日
			自二月十九日	自二月十九日	自二月十九日
			自二月十七日	自二月十七日	自二月十七日
			自二月十五日	自二月十五日	自二月十五日
			自二月十三日	自二月十三日	自二月十三日
			自二月十一日	自二月十一日	自二月十一日
			自二月九日	自二月九日	自二月九日
			自二月七日	自二月七日	自二月七日
			自二月五日	自二月五日	自二月五日
			自二月三日	自二月三日	自二月三日
			自二月一日	自二月一日	自二月一日
			自一月三十日	自一月三十日	自一月三十日
			自一月二十七日	自一月二十七日	自一月二十七日
			自一月二十五日	自一月二十五日	自一月二十五日
			自一月二十三日	自一月二十三日	自一月二十三日
			自一月二十一日	自一月二十一日	自一月二十一日
			自一月十九日	自一月十九日	自一月十九日
			自一月十七日	自一月十七日	自一月十七日
			自一月十五日	自一月十五日	自一月十五日
			自一月十三日	自一月十三日	自一月十三日
			自一月十一日	自一月十一日	自一月十一日
			自一月九日	自一月九日	自一月九日
			自一月七日	自一月七日	自一月七日
			自一月五日	自一月五日	自一月五日
			自一月三日	自一月三日	自一月三日
			自一月一日	自一月一日	自一月一日



栗野町報 第卅九號

七

◎學事

頭福田七右衛門氏ヨリ左ノ件ヲ揭示シタリ

一消防設備ニ關スル件
一防火設備ニ關スル件
一監査ニ關スル件

右終ヲ曩ニ組頭及役員安發助役等縣内優良消防組トシテ知
ラレタル下都賀郡間々田村、石橋町、那須郡馬頭町、太田
原町、宇都宮市等ヲ見學觀察シタル類末ヲ福田組頭ヨリ逐
一報告スル所アリ次ニ安發助役ハ右報告ノ拾遺及ビ施來ノ
施設等ニ就キ所撰ヲ述ベ午後五時散會セリ

○十月十五日栗野第一、第二、尋常三校ノ尋常科六學年生徒
ビ高等科隨意希望者ヲ合セテ計百五十名中禪寺ニ修學旅行
ヲナシタリ引率者ハ和賀井校長、市川校長、田中校長、牛
久、高橋、小室、岩出ノ四訓導ニシテ役場ヨリ廣瀬書記監
督トシテ出張セリ東照宮、寶物館ヲ參拜シ沿道ノ風光ヲ賞
シ福殿瀧ノ壯大ヲ觀千古ノ靈ヲ流ヘタル中禪寺湖畔ノ旅館
ニ投宿シ翌十六日午後六時歸着シタリ

季末夕早ク楓葉紅ヲ潮セズ唯赤キハ萬、山漆ノ類ナリシ曉
天霜已ニ降り板橋ノ人跡清冷骨ニ入ルモノアリ今更申ス迄
モナク兎山ノ勝樂ハ天下ニ著聞シ明治年間ノ大詩人小野湖
山先生ガ華嚴ノ瀑布ヲ歌テ一落千丈又々万丈怒號地ヲ撼カ

◎稅務

シ雷聲聞タリ是レ水ニシテ水ニ非ズ雪ニシテ雪ニ非ズ
亂レテ珠玉ト爲リ散リ煙ト爲ルト形容ノ妙ヲ極メ壯ナル
則シテ孟軻ノ直養ノ氣天地ヲ貫クニ比シ快ハ則チ史記項羽
本紀ノ鉅鹿ノ戰ニ似其勝ハ康岳、天臺ニ優リ眞ニ宇宙ノ大
觀ナリト喝破シタルモ偶然ニ非ズ身親シク其境ニ臨ミ俯仰
シテ其光景ヲ目撃シタル生徒徒長途ノ疲勞モ忘レテ嘖シガリ
シハ修學旅行ノ他ノ一年ノ收穫モ聞ヘラレタルヲ覺ヘテ一
快事ニ屬ス

○納稅標語

▲一人の滯納は萬人の迷惑
▲納稅は日掛月掛心掛
▲家計簿の第一に置け諸稅金
▲納稅成績は自治の尺度なり
▲稅滯りて稅を生む
▲滯納の萬金よりも連納の一錢
▲明日ありと思ひのばすな納稅期役場の迷惑延いて我が損
▲滯納は我が税金を更に増し
▲滿納は稅の上にも稅がつく
▲忘れず租稅納むる心こそ國に盡す誠なりけり

栗野町報 第卅九號	學校名	人員	全額	取附量	金額	上納額	一級當	職員	薪當
全	加蘇加園	100	100	100	100	100	100	100	100
全	處女會	100	100	100	100	100	100	100	100
全	小來川	100	100	100	100	100	100	100	100
全	清洲第一	100	100	100	100	100	100	100	100
全	永野高等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	眞名子村	100	100	100	100	100	100	100	100
全	箱尾第一	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全引田	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全下澤	100	100	100	100	100	100	100	100
全	東大等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	落合四校	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全處女會	100	100	100	100	100	100	100	100
全	西大等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	高南等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	高南等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	西方村	100	100	100	100	100	100	100	100
全	北押原村	100	100	100	100	100	100	100	100
全	南摩高等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	板荷村	100	100	100	100	100	100	100	100
全	栗野第二	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全第三	100	100	100	100	100	100	100	100
全	北大岡	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全東校	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全高等	100	100	100	100	100	100	100	100
全	全南校	100	100	100	100	100	100	100	100
全	合計	100	100	100	100	100	100	100	100



粟野町報

第四拾號 (大正十四年十二月廿日) (日曜日)

大正十四年十月一日施行粟野町國勢調査ニ依ル戸口其他左ノ如シ

調査區	世帯數	人口	調査員氏名
一 大字口栗野字釜場	四二	二〇三	金正
二 全 上字新宿	二二	一六	片澤喜代次
三 全上字下町南側通	四〇	一八七	阿部典惣八
四 全上字下町北側通	四二	一七〇	牧野三郎
五 全上字中町南側通	五二	二二七	樽見喜兵衛
六 全上字中町北側通	三五	一九六	落合義則
七 全上字上 町	五〇	二二三	内田平次
八 全上字叶桑澤南側通	三三	一一五	金子茂八郎
九 全上字叶桑澤北側通	三三	一九二	澤村喜一
一〇 大字 柏木	一〇	八一	神山佐太郎
一一 大字口栗野字横町	三九	一八九	大川宇一郎

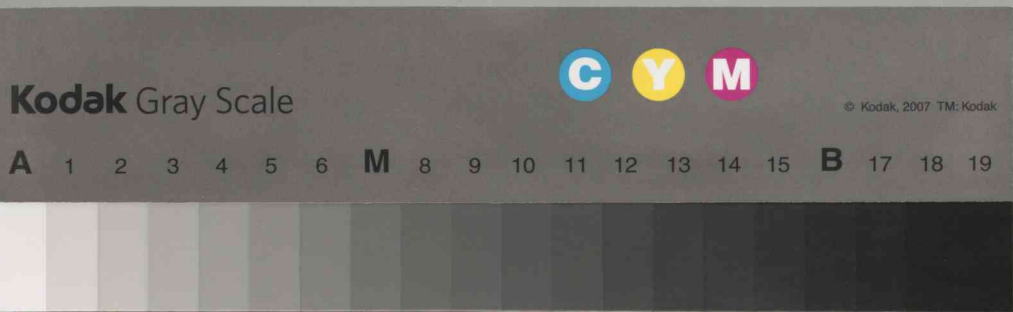
自治組合伍長及代理者ノ任期ハ十月末日ヲ以テ滿了ニ付各組合員ニテ夫々改選シ例ヘ留任ノ者ト雖モ届出ヲ要シ尙多數組合中ニハ組合員異動セシモ届出無之タメ處理上弊支ヘ各組合員氏名ハ必ず記入シ此人員ハ組合表彰ノ基礎トモナルベキモノニ付特ニ御留意相成度旨揭示方ヲ各區長ニ依頼シタリ

▲一時渡ぎに滞納すればする程増す負擔
▲滞納者停の嫁の纏まらず
▲勤勉なる國民に納税の遅刻なし
▲納期を守るものはよく國を守る
○税金は必ず納期内に完納すること、若し滞納すれば、其整理等の爲めに役場の事務を滞らせ經費を増し、延て各自の損失となる

大正十四年十月三十日印刷
大正十四年十二月十日發行

編輯者 安 發 清 作
發行人 安 發 清 作
印刷所 井 上 印 刷 所
印刷所 井 上 印 刷 所
印刷所 井 上 印 刷 所
印刷所 井 上 印 刷 所
發行所 粟野町役場

○社交上ノ弊風ヲ矯正スルコトハ最モ大切ノコトデ丁度年末年始ニ懸掛ツタ今日左記各項ヲ遵守スルコトハ勤儉獎勵上



栗野町報 第四十號

答 辭

本日ノ佳辰ヲトシ 蔬菜立毛品評會 褒賞授與ノ式典ヲ舉行セラ
ル生等ノ光榮何者カ之レニシギン惟フニ文化ノ進運ハ益々蔬
菜栽培ノ改良促進ヲウナカシテ止マズ然シテ健康トノ
關係ハイヨクキニミツノ度ヲ増シ田園生活ノ根底ヲナサ
トス生等示今層一層本日ノ光榮ニカンガミ本町生産ノ能率ヲ
高メントシ一言以答辭トナス
大正十四年十一月廿三日
本町青年會 受賞者總代
金子茂八郎

○家庭實習地品評會
麥作之部

一等	小會戸重造
二等	高島順一
三等	岩出六郎
全等	山野井良作
全等	福田清一郎
全等	大澤清一郎
全等	渡邊邦重

水稲作之部

一等	廣田重雄
二等	高島正治
三等	古川公一
全等	石川恒信
全等	戸坂三郎
全等	茂徳
全等	日比野三郎
全等	岩出六郎

答 辭

本日ハ私等ノタメニ家庭實習地品評會 褒賞授與式ヲ舉行セラ
レマスニツイテ多數各位ノ臨場ヲ辱フシ種々有益ナル御言葉
ヲ頂戴イタシテ誠ニアリガトウ御座イマス私等モツネ
々生産能率ノ増加ガトイフコトヲ日標トシテ努力イタシテ
ハ居リマスモノ、マダ「學」ト申トテ「學」トシテ「力」イマ
スカラ今後層一層先生ノ御教ヲ守リナホ審察報告ニカンガミ
殺殺蔬菜ハ勿論當町唯一ノ特産物タル大規模耕作ノ方面ニモ着
々歩武ヲ進メテ見タイト思ツテオリマスツテ本日ノ光榮ノ
万分ノ一ニ才酬ニ致スト共ニ益々當地方實業開發ノ先驅ヲナ

栗野町報 第四十號

栗野町報 第四十號





栗野町報 第四十號

シ得タイト思ッテオリマス受賞者一同ニ代リ聊カ所懐ヲ陳ジテ答辞ニ代ヘマス
大正十四年十一月廿三日
栗野實業補習學校研究科二年生
高嶋重雄

◎第九第十農區及入栗野上組青年會支部聯合第三回農產物品評會ハ十一月十五日尋常小學校ニ開會シ青年會支部長神山克雄式辞ヲ述ベ審査長神山本町農會技手審査報告シ直チニ賞品ヲ授與シタリ

○入賞者氏名

一等賞	芝罘白菜	大橋基一郎
全	包頭蓮結球	横瀬武三郎
全	練馬大根	島山千代太郎
二等賞	小豆	齋藤福松
全	聖護院大根	小島周三郎
全	大豆	小島開三郎
全	野崎白菜	金子啓次
全	大根	金子啓作
三等賞	方領大根	大橋要
全	包頭蓮結球	横瀬武三郎
全	聖護院大根	横瀬武三郎

◎十一月八日宇根鹿沼警察署長栗田町長、福田組頭、安發助役其他關係者列席消防点檢式ヲ舉行シ十ヶ年乃至二十ヶ年ノ消防勤績者ニ對シ栃木縣警察部長或ハ鹿沼警察署長ヨリ夫々賞狀ヲ授與シ同時ニ本町ニ於テモ十ヶ年以上勤績者ニ表彰狀ヲ授與シタリ本町ヨリノ受賞者左ノ如シ

記

第六部	長	吉田青三郎
第八部	小頭	齋藤祐松
全	全	小島甚三郎
第一部	消防手	渡邊小重
第八部	全	大和田清一郎
全	全	齊藤八郎
以上	六名	

表彰狀
栗野町消防組 部
消防手(役名) 氏名
右ハ消防手拜命以來勤績十ヶ年以上ニ達シ其間格勳勵精斯道ニ貢献シタル所鮮ナラズ洵ニ効績顯著ナリトス仍テ茲ニ表彰ス
大正十四年十一月八日
上都實郡栗野町長 福田 富士

因ニ當日消防組頭ノ祝辞及警察側ノ受賞者ヲ兼テ總代ノ答辞左ノ如シ

祝 辞

天高ク氣澄ミ菊香ふくいくタル佳節ニ於テ正ニ本日ヲトシ消防点檢ノ式ヲ舉行シ点檢執行官並ニ栗野町長其他來賓諸君ノ御臨席ヲ辱フシタルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ而テ今茲ニ講評並ニ訓諭ヲ垂レラレ且ツ本町消防組員十ヶ年以上勤績者ニ對シ栃木縣警察部長並ニ鹿沼警察署長及ビ栗野町ニ於テ表彰ノ式ヲ併セ舉ゲラル不肖職ニ栗野消防組頭ニ享ケ未タ何等稱揚ニ値スル施設無ク唯前者ヲ墨守踏襲シタルニ止リルニモ不拘此ノ榮譽ヲ受ク衷心懼悦タラザラ得ズ然リト雖モ今後改善ヲ要スベキ事項ノ多ナルハ夙ニ認識スル所ナルヲ以テ努力勵精着々改善ヲ施シ今日ノ垂詢ニ酬ヘンコトヲ期ス聊カ無辭ヲ列テ祝賀ニ併テ感謝ノ意ヲ表スト云爾
大正十四年十一月八日
栗野町消防組 組頭 福田 七右衛門

答 辭

本日茲ニ消防点檢執行官並ニ栗野町長其他來賓各位ノ御臨席ヲ辱フシ十ヶ年乃至二十ヶ年勤績者ニ對シ表彰式ヲ舉ゲラレ綏々訓誨ヲ賜ハル洵ニ以テ光榮トスル所ナリ願ミルニ我等ハ





栗野町報 第四十號

永キ期間其職ニ携ハリ上司ノ指揮監督ニ依リテ僅カニ其職責ヲ塞キ得タル而已然ルニモ拘ハラズ此ノ榮譽ヲ荷フ感激ノ情ニ禁ヘズ自今倍々勵精シ御懇諭ニ副ハンコトヲ誓フ謹デテ之ヲ答辭ト爲スト云爾

大正十四年十一月八日

栗野町消防組
受賞者總代
神山文治

○元栗野實業補習學校教諭中村シウ氏ハ今回退職ニ付十一月廿四日付教イ第五六二號ヲ以テ普通恩給年額金四百八圓ヲ給セラレ

○皇孫殿下御降臨在ラセラレ奉祝ノ誠意ヲ表スル爲メ區長會ヲ(十日)招集シ其ノ方法ニ付協議ノ結果左ノ如ク決定シ十二月十二日實行セリ

當日午前十時口栗野神社ニ町吏員神社總代在郷軍人分會員青年會員町民多數參集シ神職ハ祝詞ヲ奏シ順次玉串ヲ捧ゲ禮拜シ町代表者ノ賀詞及ビ草薙ヲ三唱シ衆員同聲ニ之ニ和シ第一小學校生徒ノ參拜終リテ生徒ハ教員指揮ノ下ニ直チニ旅行列ニ移リ町内ヲ除行シ夜ニ入リテハ各戸球燈ニ火ヲ点ジ軒下ニ吊シ午後六時ヨリ安發助役先導トナリ町民一般ノ提灯行列ヲ爲シ再ビ神社ニ參拜シ順路客場ニ出テ引返シテ叶町ニ到リ亦タ戻リテ横町ヨリ中妻南摩街道分岐点迄練

朝暘陽光ヲ滿身ニ浴ビテ下山スルコト月二三回ノ例ニシテ出席者毎回五十名ヲ下ラズ成績寔ニ良好ナリシガ寒氣烈シクナリタルニ依リ十一月二十五日ヨリ二十日間全校ニ於テ夜學會ヲ開始シ十二月十五日ヲ以テ終了ス全校生徒及青年會員ヲ合ヒテ出席者六十四名ニ達シタリ主任講師ハ生井教諭助手シテ高橋、小室、吉村、落合ノ諸訓導之ニ當リ主トシテ球算ヲ教授シ其他公民教育外諸科目ヲ熱心教授セリ

○十二月十七日栗野青年會主催トナリ一夜講習會ヲ第一學校内ニ開キ講師ハ和賀井第一校長市川第二校長ニシテ出席者四十二名午後六時ヨリ和賀井校長ハ現代ノ思想問題ヲ解剖シ批判シテ剩ス所無ク市川校長ハ青年ノ修業ト題シ青年ノ執テ進ムべき道ヲ一々指示シテ各一時間余ノ長廣舌ヲ揮ヒ生井教諭其他ノ希望並ニ講演有リ會員ノ五分間演說ニ移リ各自毎ニ抱懷スル所ヲ最モ巧妙ニ表現シ團歌ノ合唱有リテ茶話會ヲ爲シ歡笑紛ケガ如ク午後十一時就寐シ翌朝五時床ヲ蹴テ起キ曉霧ヲ衝テ口栗野神社ニ參拜シ凡ソ十餘町ヲ疾驅輕走シ水火モ辭セザル青年ノ意氣ヲ示セリ

○郷土を論へる若人の偶論

あゝわが栗野町
夜學會の世歌の一

横根山山旭がさせば、曇る心もよう晴れる

栗野よいこ横根の山にやよそで見られぬ花が咲く
栗野町には名高い大蔵はけめ影者よ身の爲めに
栗野よいこ訪ねてごらん廻り山に花が咲く
流れ流る栗野の川よ町をはさんで北南
横根山から四方を見れば殊に日につく栗野町
赤い陽がさしや神宮様の森の鳥がなき出す
栗野よいこ鹿沼へ三里、赤い円太郎のききする
寒いわけだよ横根の山にや、白いお雪がたんざある
三つ峯山さんから南を見れば雲の上には富士が見ゆ
おらが栗野は日本一よ縦が六里で横半里
栗野よいこたよ夏では香魚冬は鹿野り山びたり
栗野名所は賀蘇山神社杉の太さて世に知らる
赤い夕日が田生に入れば野良の人等か歸り行く
寒い風だよ桑澤おろし木の葉さらつたりさられたり
神宮山から口栗野見れば赤い自働車ゆきする
お箱根山から日渡路を見れば若い人等か知やうない
栗野名物をさくの杉よ辨當持參て見にごされ
大正十四年十二月十五日

補校 夜學會

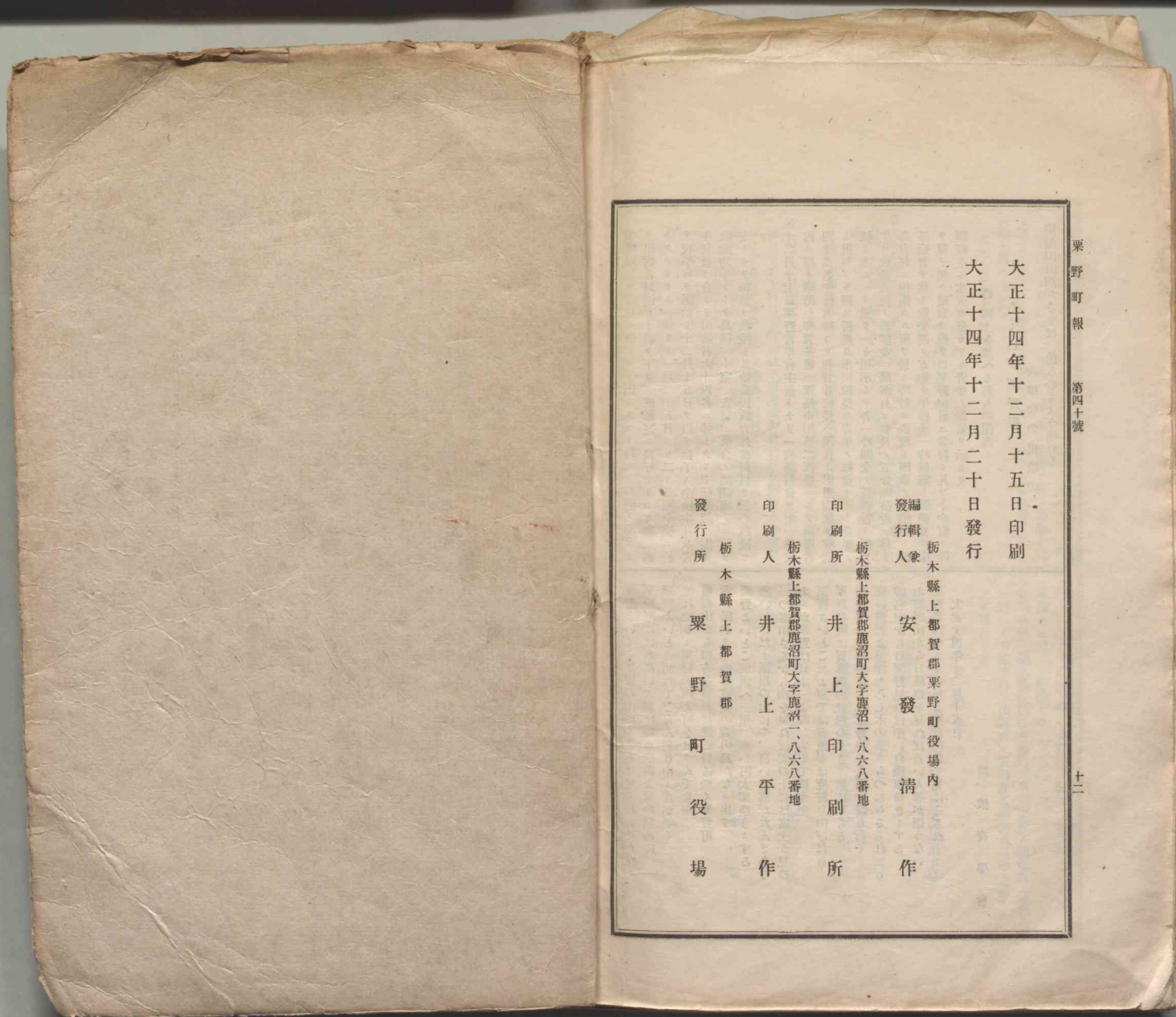
行シ引返シテ役場ニ到リ安發助役發聲ニテ衆員之レニ和シ萬歳ヲ三唱シテ解散セリ

第二學校、尋常學校結社内遙拜式第一學校ノ結社内ニ於ケル同一ノ方法ヲ以テ代表者ノ賀詞及ビ草薙ヲ三唱シ滞ナク之ヲ舉行セリ

◎賀表奉呈

皇太子妃殿下御分婢内親王御降臨ニ付御祝詞申上候
皇太后 兩陛下へ
宣敷言上相願候也
大正十四年十二月十二日
栃木縣上都賀郡栗野町長 福田 富士
宮内大臣 一木 喜徳郎 殿
皇太子妃殿下御分婢内親王御降臨ニ付御祝詞申上候
宣敷言上相願候也
大正十四年十二月十二日
栃木縣上都賀郡栗野町長 福田 富士
東宮大夫 伯爵 珍田 捨己 殿

○栗野實業補習學校ニ於テハ曩ニ個學會ヲ起シ同校生徒並ニ青年會ノ有志ヲ合セ泰明口栗野神社或ハ城山ノ絶頂ニ參登シ各自携帶ノ任意ノ書ヲ讀ムコト一時間乃至二時間ニ及ビ



栗野町報 第四十號

大正十四年十二月十五日印刷
大正十四年十二月二十日發行

編輯人 安發清
作

印刷所 井上印刷所
作

印刷人 井上平
作

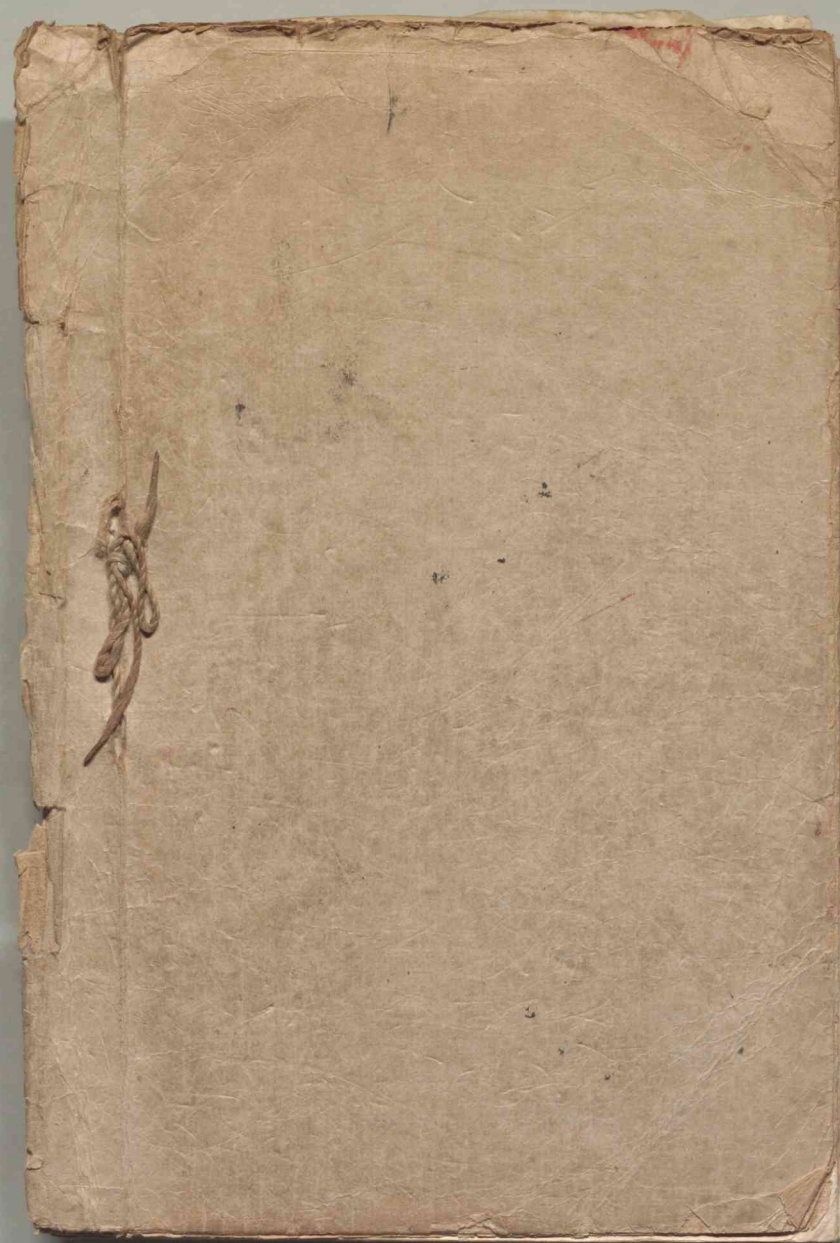
發行所 栗野町役場
作

十二

536 栗野地区 栗野町収集文書

ア2





536 栗野地区 栗野町収集文書

ア2

